



Sharing
Nature
Life

シェアリングネイチャーライフ

創刊号

2013
VOL.

1



特集

「風」を見せる

京の庭師に聞く
日本人の自然観

<http://www.naturegame.or.jp/>



公益社団法人
日本シェアリングネイチャー協会



スポーツ振興くじ助成事業

自然をまるかじり

No.1

雨の散歩を 楽しもう



雨の日の散歩には

晴れの日にはない面白さや発見がある。

葉っぱの上ではまあい雨粒が宝石のように輝き
地面に、アスファルトに、傘に…。

いろんなところに雨が落ちて

素敵な音楽を聴かせてくれる。

雨の湿気で薫る空気の匂いを楽しむことも…。

雨だからといって

家にいるなんてもったいない。

雨が織りなす自然を楽しむために

五感を研ぎすまして、散歩にいこう。

『シェアリングネイチャー』
それは、人が自然を尊重し
共生していく社会のキーワード。
公益社団法人 日本シェアリングネイチャー協会は
『自然と遊び、自然から学ぶよるこびにあふれた生活』
—をおくる人の輪を広げる活動を行っています。

Sharing S N Nature Life

シェアリングネイチャーライフ

2013 VOL. 1 創刊号



c o n t e n t s

自然をまるかじり	2
特集 ●「風」を見せる	3
イベントレポート	7
被災地復興支援情報	7
News	7
自然から学ぼう ●動物の体のしくみ	8
やってみよう! ネイチャーゲーム 〈ミクロハイク〉	8
プレゼント	9
先人の知恵 ●追悼: ネイチャーライター 加藤則芳さん	10
四角友里 ●なんにもしないアウトドア	12

編集後記

自然と人の関係性が希薄な現代は、自然環境にも人間関係にも前途多難な時代と言われています。私たちの活動の目的は、「人が自然を尊重し共生していく社会をつくる」こと。その第一歩は、シェアリングネイチャーライフ～自然と遊び、自然から学ぶよるこびにあふれた生活～を指向し実践する人の輪を広げることです。そのような思いから、身近な自然を気楽に楽しむ方法を提案する情報誌『シェアリングネイチャーライフ』を創刊しました。





自然

京の庭にみる
庭師の自然観

のなかで 心に吹く風

京都・嵯峨嵐山の古刹、祇王寺。
その庭を手がけて12年になるという武藤重信さんは
「見えないものを見て、美しいと感じる心」こそが
日本人独特の感性なのだと話します。
長年、多くの人の手で守り継がれた寺の庭と向かい合うなかで
感じた「自然観」を、春の祇王寺を訪ねてお聞きしました。



風の仕掛人
【庭師】
武藤重信さん

十数年前、「広隆寺」の弥勒菩薩半跏思惟像に心動かされ、同寺の人と『無』についての談義を数か月にわたり重ねる。その日々のなか「祇王寺」と出逢い、京に居を構え、現在に至る。

『花鳥風月』のなかで唯一目に見えない『風』。それを見ることができなのが日本人なんです。そして、その『風』こそが、見た人の美しさを感じる心、感性なんだと思います」

それは長年、祇王寺を訪れるさまざまな国の人びとと話をして、武藤さんが感じたことです。

『平家物語』の悲恋の尼寺として知られる祇王寺は、竹林に抱かれるように建つ庵と、楓と苔の美しい庭をもつ、大覚寺の塔頭のひとつ。瀬戸内寂聴が仏門に入るきっかけとなった尼僧、故・高岡智照が庵守を務めた寺としても知られます。

その祇王寺を訪ねた日は、まさに新緑の季節。雨上がりの静かな風が木々の緑



をより鮮やかに引き立て、寺の路地に足を踏み入れると、その空気感に自然と呼吸が深くなりました。

そんな私の様子を知っていたのか、まだ庭の全容を見ないうちに武藤さんから「どうでしたか？」の質問。いきなりすることに口ごもる私に「最初に感じたそれがすべてです」と笑います。

『美』とは説明するものではなく、感じるものだと思うんです。もちろん説明すれば、相手は『理解』してはくれるでしょう。でも『わかる』ことはできない。だからそれぞれの人が感じた美しさを味わうのがいいのだと思います」

枯山水の庭に見る無限の広がり

庭には造り手の「作為を見せる庭」と「作為を見せない庭」があると、武藤さんは話します。

造り手の作為を全面に出した庭は、造られたそのとき、見たときのものが最高のもので、それ以下でもそれ以上でもない。しかし「作為を見せないように造られた庭は、見れば見るほど、居れば居るほど多くのことを語り、無限の広がりを見せます」と。

新緑の祇王寺の庭には艶やかな色はありません。唯一、庭から少し離れた入り口近くに、季節の花、牡丹の鉢植えが置かれています。



「庭に牡丹を植えないことで、訪れた人がこの緑一色の庭の、好きな場所に牡丹を置いて見ることが出来ます。そうしてその風景を想像し、空気を感じて美しいと思う。それが日本人の感性です。花鳥風月の風を解する、日本人の心なんですよ」という武藤さん。

「想像する美」——その最たるものに、日本の庭を語るのに欠くことができない「石庭」があります。そして数ある京の石庭のなかでも有名なのが左京区にある『龍安寺』です。遠近法を用いて限られた場所をより大きく見せる工夫を凝らした枯山水のその庭は、海外からも高い評価を得、龍安寺の世界遺産指定にも大きな影響を与えました。



「青空の一遍の雲を見て 案ずるよりも 雨空の中の一遍の青空を見て 案ぜよ」



陽から陰に下るより陰から陽への広がりがおもしろい。
そこには無限の宇宙があります。

ところが訪ねてみると、意外にも龍安

寺の敷地は広く、石庭の外側には大きな池を配する庭園があります。なぜ、この広大な敷地に、古人はあえて狭く仕切った石庭を、遠近法まで用いて造ったのでしょうか。

この龍安寺の石庭について武藤さんは、「もしあの庭に一筋の水を流したなら、庭はものすごく狭く感じられると思いますよ。水がないからあの庭は広く見える

んです」と話します。

“想像させる”ことにより、見る人により広い世界を見させるのだと。

「よく人は芸術を見て『わからない』といいますが、わからないものはわからないままでもいいんです。わからないから人は想像をする。想像するからこそ、世界は広がるんです」

広大な庭にあえて狭い石庭を造ることにより、広大な庭よりもより大きな「無

【特集】「風」を見せる…京の庭にみる 庭師の自然観

限」を見せようとしたのでしょうか…。その問いに、武藤さんはただ静かに笑うだけでした。

**造り手はいつでも自然
「受容」がおもしろい**

伝統的な日本の庭でよく見られるもう一つの技法に、外の山や木々などの風景を背景として取り入れる「借景（かきけい）」があり

ます。この借景を武藤さんは「広がり」と「受容」だと語ります。

「自然には人が踏み入れてはいけな一線があると思うんです。そこは動物たちの世界であり、神の世界。この一線を犯して人が自然に踏み込んでいくとき、災害が起こります。クマに襲われたり、開発による崖崩れが起きたりする。そう考えると、天災といわれていることなかには、人災といえるものも多いように



思います」

昔の人は、その踏み込んで行かれない大自然の空気を、庭に「無限の空気感」をつくり、写しとろうとしたのか。そんなことを考えながら祇王寺の庭を見ると、狭いはずの庭が、深く広く見えます。

「自然は手前で見ているのがおもしろいんですよ。自然の前にしゃり出て、人が自然をリードしようとしてはいけないんです」

祇王寺の庭を歩くと、苔の上に椿の花がひとつ、ふたつと落ちていきます。楓の枝からは蜘蛛の巣にひっかかっている枯れ葉が風で回っています。自然のままのような庭。けれどこの景色を保つには多くの「手」が掛けられているはず。

「もちろん苔のなかにも鑑賞に適さないものもあります。広がってほしくない場所に出る苔もあります。そのような

訪れた人に求められれば、気さくに話をする武藤さん。



草の台とかいて「苔」
草が化けると書いて「花」
「花」は枯れてまた草になります。



人は自然を見て、「良い加減」に手を入れる。それが庭師の表現。

ものは一つずつ間引きます」

草も、枯れ葉もしかり。しかしそこに庭師の作為が見えすぎてしまつてはダメだというのが、武藤さん流です。

「造り手はあくまでも自然です。人の作為はいざればこころびます。ほころびを見せないためには、守りの姿勢になる。守りは争いの始まりです。そんな世界

はおもしろくないですよ」

「受容」の世界こそがおもしろい。想像もしない出来事に触れる喜び。そこに自らを表現する喜び。「受容」には二つの喜びがあるのだといいます。

そして、その喜びは、四季のある日本ではさらに強く感じられます。色に立体感がでる紅葉の季節。緑の変化を

愛でる春。楓の葉が雨を受け、重みで樹形が少し丸みを帯びる雨の日…。

「この自然にずっと寄り添っていたいと思いますね」と、庭を見ながらぼそつという武藤さん。

「そう思つてもう12年がすぎました」

日々の暮らしに追われるなかでも、私たちは身近な自然に見えない風をちゃんと感じていくのでしょうか。そして自然に寄り添っているのでしょうか。

桜が終わった嵯峨嵐山は、萌黄に新芽の赤が映える、まさに一瞬の「山笑う」季節でした。そして原稿を書いている今、東京は日に日に緑が濃くなる青葉の季節です。

『自然の多面的な 見方を学ぶセミナー』

2013/2/9〜10 吉本洋(熊本県)

Event Report
1

文部科学省の五島政一先生が考案された、物を7の側面から見られる『アリスシステム教育アイデアカード』のレクチャーでは、自然案内人として大切な「ひとつのことを多くの方向から見られる手法」が得られました。自然のなかで見つけた疑問から学びを深めた宮沢賢治のように、「遊びとは学問にとって大切なエッセンス」だと、改めて感じました。



『ネイチャーゲーム 研究集会』

2012/2/11 野澤由美(東京都)

Event Report
2

「一人一人が違つことはいいこと。知恵が合わさって良くなるのが素敵です」という話で始まった(名つけ親の旅)。葉っぱの小さな穴から見た景色が上下逆に見えることを発見し、ワクワクした(わらしべウオー)。小学校の理科教育向上に尽力する日置光久・村山哲哉両先生の話に「子どもにとっての自然体験活動の大切さ」を実感した一日でした。



被災地 復興支援情報

『2013春休み岡山保養フロン』 でネイチャーゲームを行いました。

2013/3/30 勝間光洋(岡山県)

福島の子どもたちを思いっきり外で遊ばせようと企画された「子ども未来・愛ネットワーク」主催の『春の保養フロン』。そのひとつ、岡山県浜川海岸で行われたイベントでネイチャーゲーム体験のお手伝をしました。風は冷たかったですが、空と砂浜の色が美しく、子どもたちは木や砂、風などを肌で感じ、目を輝かせていました。

〈目かくし歩き〉では、多くの子が裸足になり、海の水の冷たさや草地と砂の感覚の違いなどを楽しみ、ちよつとした目かくし散歩となりました。最初は不安気だった子どもが、最後はどんと森の奥まで入って行ったのを見てびっくり!

高台から子どもたちと眺めた瀬戸内の海。あの風景がそれぞれの心に焼き付いてくれたなら、うれしいです。



〈目かくし歩き〉で波音に包まれながら、海岸散策をたっぷりと楽しみました。

白砂青松の海岸での〈きこりの親方〉。いろいろな木にふれて楽しみました。



News

2013年度助成金採択状況

日本協会が申請してありました下記の助成金が採択されました。

- スポーツ振興くじ助成事業
広報ツール(広報誌・普及ツール・ウェブページ)
ネイチャーゲームセミナー 40会場予定

2013年度永年会員表彰

日本協会では、会員を永年続けてこられた方を表彰しています。2013年度は、旧日本ネイチャーゲーム協会からの10年継続会員565名、20年継続会員184名が誕生。該当する会員の方には、「記念バッジ」を送らせていただきます。



10年会員バッジ
※今年から新デザインになりました



20年会員バッジ

第7回全国一斉 シェアリングネイチャーの日

毎年、10月の第3日曜日を「全国一斉シェアリングネイチャーの日」(旧、ネイチャーゲームの日)に設定しています。全国にある「地域ネイチャーゲームの会」のイベントに参加したり、家族や仲間と一緒に、またはひとりで気軽に自然を楽しみませんか Facebook「シェアリングネイチャーの日」を9月に立ち上げる予定です。イベント情報はホームページをご覧ください。

- 実施日：2013年10月20(日)

2013年度 実践事例・研究報告/ シェアリングネイチャー奨励賞 募集

日本協会では、会員の皆さまの実践事例や研究報告を募集し、奨励しています。積極的にご応募ください。

- 応募締切り：2014年3月31日
- 応募方法：所定の様式に記入し、メールでお送りください。(詳しくはホームページをご覧ください)
- 送付先：
事例・研究報告
⇒jirei@naturegame.or.jp
シェアリングネイチャー奨励賞
⇒shoreisho@naturegame.or.jp





予想外?!な動物の体のしくみ

多くの人は、動物を見ると

どうしても自分の体とくらべて見てしまいます。

そこにはたくさんの「思い込み」があり

動物の本来の姿をじつは屈折して

理解していることも少なくありません。

固定概念で、「自然」を見ていませんか？

イヌやネコのうしろ脚の「ひざ」。よく見る

と人間とは違って、逆「く」の字に曲がついて

と思いませんか。ところが、多くの人が「ひ

ざ」だと思っているところは、じつは「かかと」。

ひざは脚の付け根近くにちゃんとあります。つ

まり、走りやすいように足の先とかかとの間が

長くと伸びてしまったわけです。もっとも長く

伸びたのはキリンでしょうか。

そして、クワガタの武器。

見慣れたシカやゾウな

どのツノを思い、クワ

ガタもツノかと思えば、

じつはあれは立派な「あ

ご」なのです。

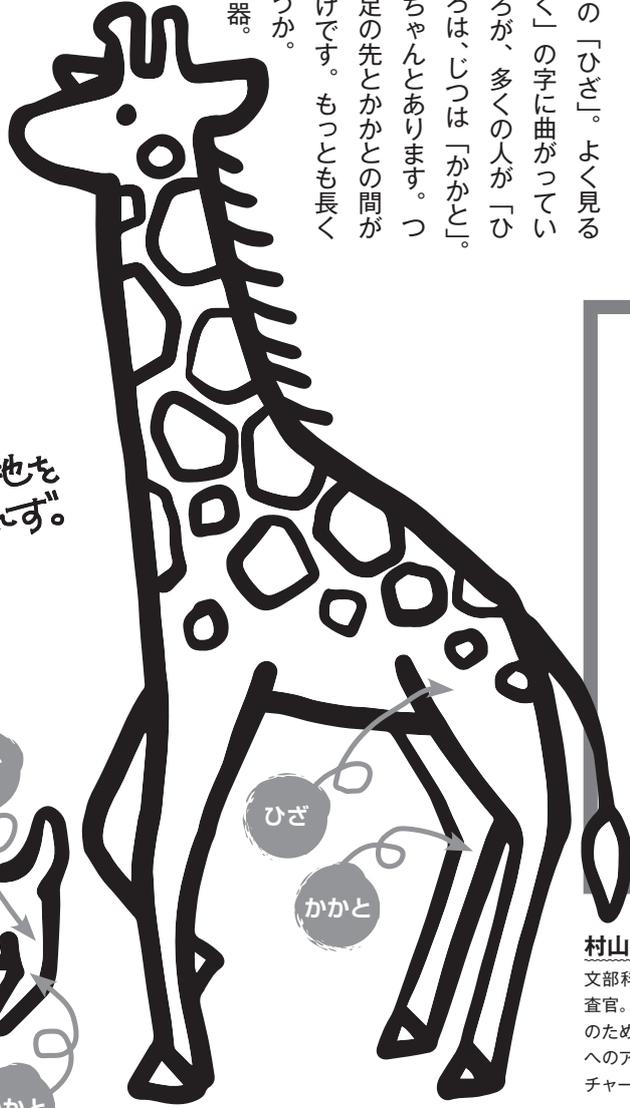
このように動物の体は不思議なこ

とでいっぱいです。そこには環境に適応してき

た長い歴史が埋め込まれています。そうしたそ

れぞれの生物の環境や進化のことを考えながら

観察すると、きつと生きものの違った側面が見



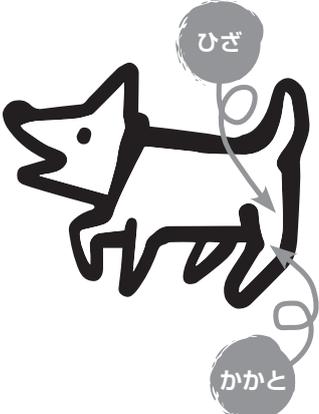
キリンの脚

「ひざ」かと思えば

まさかの

「かかと」なり

キリンは、「かかと」で大地を踏みしめられず。



村山哲哉 (むらやま てつや)

文部科学省初等中等教育局課程理科教科調査官。理科教育の理念と効果的な学習手法の普及のために、年間170校以上の小学校を訪れ、教員へのアドバイスなどを行う。日本シェアリングネイチャー協会体験型環境教育研究会委員。



じつは地面はたくさんの生きものが棲む場所。ふだん、なかなか目を向けられない足もとに広がる世界に、探検旅行に出かけよう。

必要なものは、虫メガネと糸、それと好奇心！



ミクロの探検でいったい何が見えるのでしょうか：草むらがまるでジャングルのように見えるたり、小さな草花に産毛が生えていることを発見したり、アリよりもっと小さな虫たちが忙しそうに働いていたり、虫とバッチリ目があってしまったら…、さあ、視点を変えることで発見できる自然を楽しみましょう。

- ① 地面に糸（1m程度）を置き、それを探検コーズに見立てます。
- ② 腹ばいになって地面に顔を近づけ、虫メガネで糸の端を見ます。
- ③ 動くものや面白いものを探しながら、糸に沿って進みましょう。



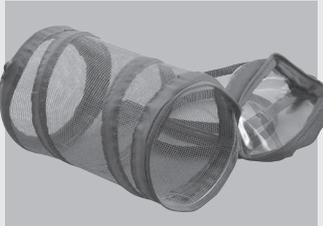
Present

アンケートに答えて
自然を楽しむグッズを
ゲットしよう！



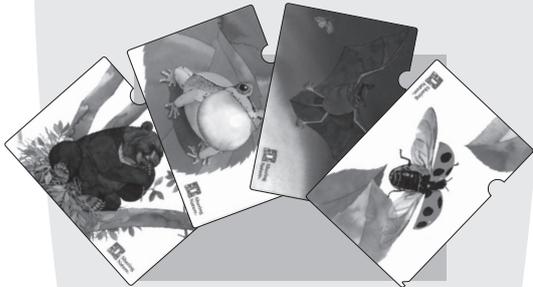
①昆虫観察カップ 1名様

フタが拡大レンズになっている透明ケースの昆虫観察カップ。さまざまな角度から観察できる優れもの。定価 600 円 / ネイチャーゲームクラブ



②虫ポーチ 1名様

小さく折り畳めるメッシュのポーチは、「自然の宝もの」探しのおともに、公園や森に持ち歩きたい！ 定価 525 円 / エーワン



③生きものクリアファイル 3名様

クマ、テントウムシ、アマガエル、コウモリのイラストが描かれたクリアファイル。生きもの好き必須！ 定価600円 (4枚セット) / ネイチャーゲームクラブ

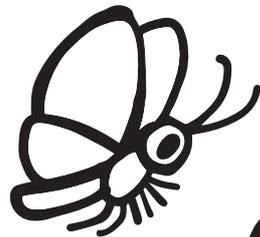
*応募方法は、以下QRコードまたは、アンケート投稿サイトから。
アクセスをお待ちしています。

<http://www.efeel.to/survey/soukangou/>



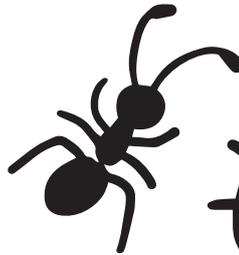
クワガタの武器。
ツノが思えば
じつは「あご」。

あご「戦うとは
小マ滑稽なり」。



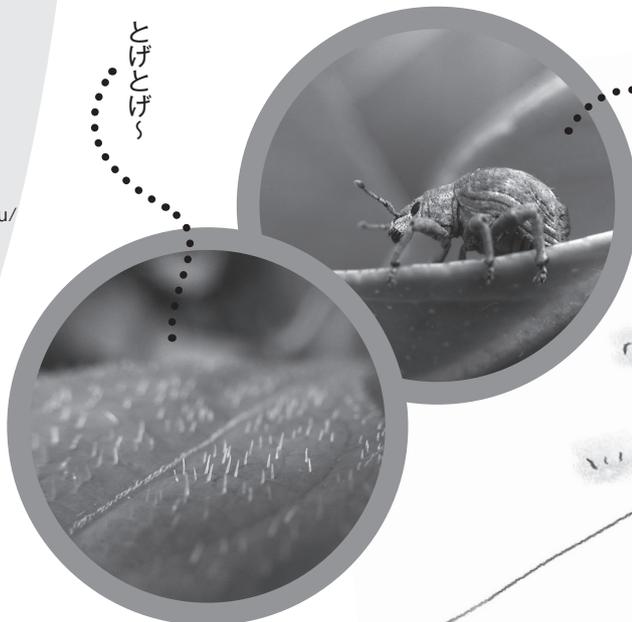
カマキリのカマ。
腕だと言いはれば、
昆虫じゃなし。

昆虫は、
体が「頭・胸・腹」にわかれ、
脚が「6本あるもの」
いうさ。



とげとげ

こんなところに
かわいい虫が



さまざまな分野の達人にインタビューを行い、長年にわたる自然との付き合いで得た気づきや自然観を紹介します。

ワクワクするような 冒険心をかき立てる トレイルをつくりたい



日本にロングトレイルの
魅力を紹介した
加藤則芳

プロフィール

加藤則芳 ●かとう のりよし

1949年生まれ。出版社勤務の後、八ヶ岳に移住。執筆活動の傍ら世界各地のロングトレイルを歩き、その魅力を伝えるとともに日本の国立公園のあり方に一石を投じた。著書に『森の聖者 自然公園の父ジョン・ミュア』（山と溪谷社）、『日本の国立公園』（平凡社）などがある。2013年4月筋萎縮性側索硬化症（ALS）のため死去。

ヨセミテ国立公園をはじめ、アメリカの国立公園の制定に尽力したナチュラリースト、ジョン・ミュアの功績を日本に紹介し、日本の国立公園のあり方に一石を投じたネイチャーライターの加藤則芳さん。長い間日本の登山の主流だった、いわゆる頂上を制覇することを目的とした「ピークハンター」から、行く途中の自然やその地の文化を楽しみながらゆっくりと山道を歩く「ロングトレイル」を紹介したのも加藤さんです。

「ロングトレイル」という縦走を思い浮かべる人も多いけど、ピークを踏むための縦走とは違って、本来のロングトレイルは「歩く過程を楽しむ」ものです」

もちろん、日本にも多くのロングトレイル、自然歩道があります。しかし地図上で計画されたものも多く、「歩く人が

本当におもしろいと思つてつくつたものじゃない」というのが加藤氏の嘆きです。「安全を第一優先するばかりに、歩くと人のワクワク感が削られてしまつてい

国がつくつて都道府県が管理をするので、地方自治体が興味を持たないとメンテナンスマネジメントが途中で途切れてしまつてもある。でも地域のボランティアがメンテナンスをやる米国のシステムを取り入れれば管理は継続します」

この加藤氏の主張に共感し、長野と新潟の県境にある信越トレイルでは、登山者や自然愛好者がメンテナンスをやるイベントがすでに実施されています。



「気軽に安全に歩けるトレイルなんて魅力がないでしょ。いま計画中の三陸復興国立公園では、海岸線で潮が満ちてきたら水没してしまうようなトレイルを提案しています。潮の干満は事前に調べられるから、歩く人はそれを計算して計画すればいい。そういうのがワクワクするんだよね。安全に歩きたい人のためには、山側に干満に影響されないルートを造ればいいわけです」

アメリカの国立公園には「フロントカントリー」と「バックカントリー」という考え方があります。例えば、ヨセミテ国立公園のフロントカントリーは年間400万人の観光客が訪れるヨセミテバレーです。その数はヨセミテを訪れる人の99%、しかし

面積は1%にすぎません。それ以外の99%のバックカントリーを残り1%の人が利用しています。なので、国はヨセミテバレーに十分な施設をつくり安全対策を充実させています。

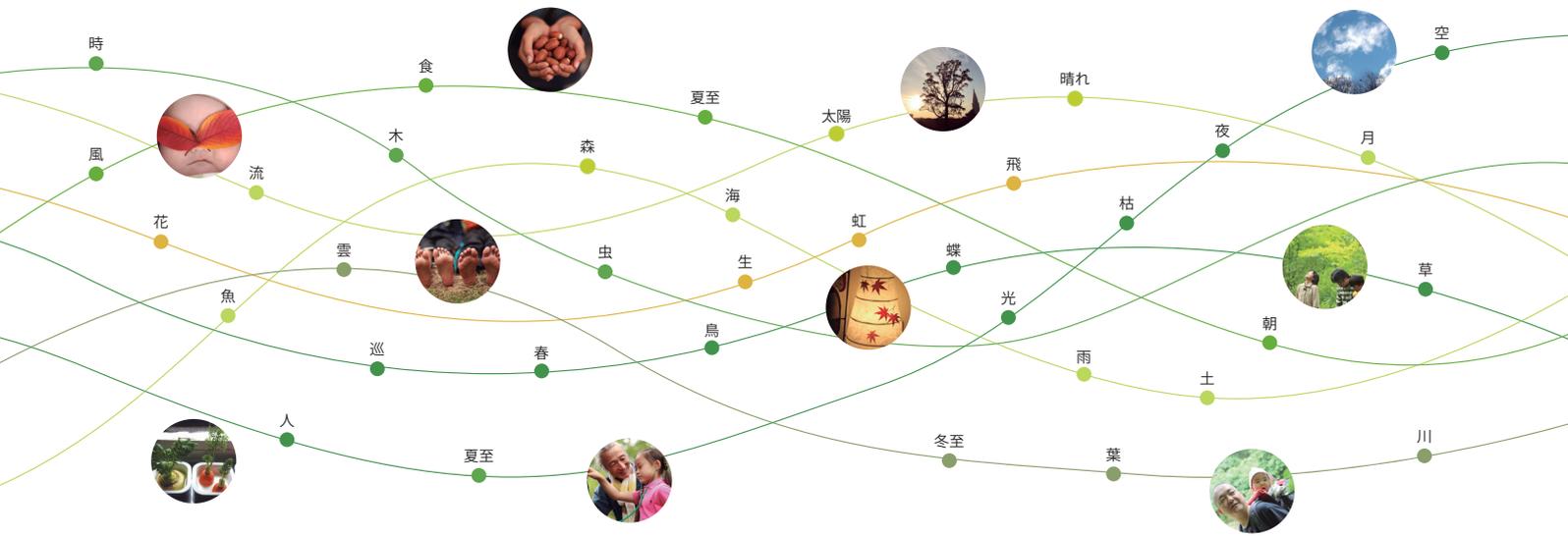
「バックカントリーは利用者の意識が高いから、事故があつても国を訴える人は少ない。自己責任で行動する。そういうロングトレイルを日本につくりたい」この加藤氏の思いが環境省に届き、現在東北復興事業のひとつとして計画が進んでいる『三陸復興国立公園・みちのく潮風トレイル』（青森県八戸・福島県松川浦間約700km）では、地域の人たちと環境省のレンジャーが足で歩きながらトレイル開通に向けた準備が進められています。日本にもまもなく、海岸線を走る本格ロングトレイルが誕生です。

もっと自然と

シェアリング

しよう

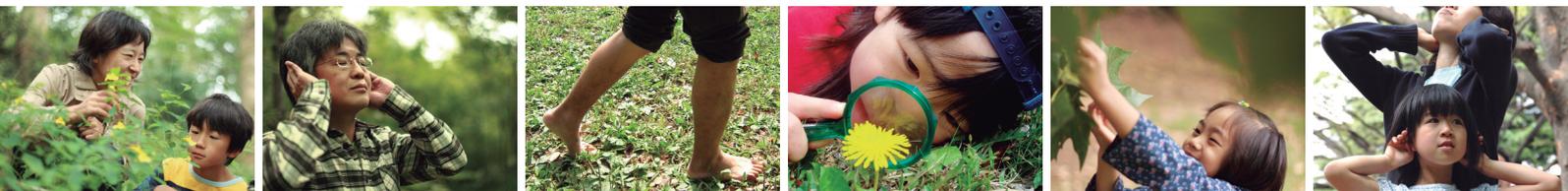
私たちは、シェアリング(わかちあい)の姿勢こそが自然と人をひとつにしてくれると考えています。シェアリングネイチャーのさまざまな活動によってひとりひとりの感性は研ぎ澄まされ、自然の美しさや面白さを感じることができます。それは、やがて自然への畏敬や思いやりの心を育みます。



公益社団法人 日本シェアリングネイチャー協会



私たちは1986年に任意団体からスタートし
ネイチャーゲームの普及を進める全国組織日本ネイチャーゲーム協会として活動してきました。
2013年4月、ネイチャーゲーム活動を軸としながら
より広い自然との関わり方を伝えていくために団体名を「日本シェアリングネイチャー協会」に変更。
ネイチャーゲームをはじめとした自然体験プログラムを通して
Sharing Nature Life～自然を楽しみ、自然と遊び、自然から学ぶよろこびに満たされた生活～を送る人々を
ふやす活動を続けていきます。



楽しみ方は他にもいっぱい！まずは↓ここから

<http://www.naturegame.or.jp/>

業務内容 ● ネイチャーゲーム普及事業 / 指導者養成・研修事業 / 講師派遣 / 自治体や企業からの受託事業

いま、
そこにある
自然を楽しもう

おおくのひとが
自然に触れ、
笑顔で生きて
ゆけますように……



原生林の創りだした
この湖の水を飲料水とし
て生きてゆくことを決めた
2010年



なんもしない アウトドア

四角友里の

「わたしにアウトドアなんて、できっこない」
そう思っていた。
運動神経ゼロ、体育の成績は「2」という
完全なインドア派だったわたしが
足元のお花に心を奪われたり、
朝露の粒がきらきら輝くことにはとしたり。
「わあ」「たのしい」「きれい」と
子どものような言葉で、心で
涙をながすようになるなんて想像もしなかった。
わたしを変えてくれたのは
なんにもしないアウトドアとの出逢い。
体を動かすことも素敵だけれど、
自然のなかでみつめる美しいものに
ただただ心を動かす。
アウトドアの本質って
DoではなくFeelなのだ。自然が教えてくれたから。
『□』を紙に描き、いっしょにお出かけすると
空や植物がニコッと笑いかけてくれるような気分になる。
心をひらけば、自然はかならずそばにいてくれて、
いつでもどこでも、つながってくれるんだ。
アウトドアって特別なことじゃない。
徒歩10分、半径800mの日常に溢れる
ドキドキワクワクを大切に、
自然を感じ生きてゆこう。

profile

Yuri Yosumi

執筆、講演、ウェア開発での表現活動を通して「自分らしいスタイルで大自然と繋がりたい」というメッセージを発信、多くの女性に支持される。ニュージーランド湖畔の森と東京で暮らし、ふたつの国の山歩きをライフワークとする。山スカートの第一人者、着物着付け師としての顔も持つ。著書にエッセイ「デイリーアウトドア」。登山ハウツー本「一歩ずつの山歩き入門」が今夏発売。www.respect-nature.com

